

## キク類の病害虫対策について

露地で栽培しているキク類は、これまで以上に防除が重要な時期になります。8月のお盆、9月のお彼岸に向けて、しっかりと病害虫防除を行い、良品生産に努めて下さい。

### 1 注意したい病害虫

#### (1) アザミウマ類

生育期に成・幼虫が生長点付近に寄生して吸汁するため、展葉してきた葉にクロイド症状が発生します。特にミカンキイロアザミウマなどは花を好んで食害し、花卉にカスリ状の小斑点を生じたり変色させるため、切り花の商品価値を著しく低下させます。蕾の膜切れ後に侵入すると、薬剤がかかりにくいため防除が困難になります。露地では5〜7月と9月に被害が多くなります。

#### (2) ハダニ類

高温乾燥時に繁殖は旺盛になり、短期間のうちに著しい被害を与えるようになります。ハダニ類(図1)は汁液を吸収し、葉緑素を破壊するので、被害株は生育が衰える一方、葉や花にカスリ状の小斑点を生じたり、変色します。ハダニ類は葉裏や蕾など薬剤のかかりにくい場所に寄生するので、発生を見逃さずに、発生初期に防除を行うことがポイントになります。薬剤はムラなく丁寧に散布してください。多発生になると薬剤の効果が現れにくく、防除が難しくなります。



図1.ハダニ類の成虫と卵

#### (3) オオタバコガ

6〜10月にかけて発生が多くなります。幼虫が新芽を食害するため、心止まりとなったり展開してくる葉が穴だらけになったりします。発生にバラツキがあるため、発生初期の適期防除が重要になります。

#### (4) 白さび病

露地では梅雨期にかけて多発します。胞子の発芽最適温度は18℃前後で、多湿条件で夜温が10〜15℃位の低温のときに発病が多くなります。発病

後の薬剤散布はほとんど効果がありません。発病前から予防散布を徹底し、特に葉裏に胞子の形成が多い(図2)ので、薬剤が葉裏に十分付着するように散布して下さい。



図2. 白さび病斑  
(左: 葉裏、右: 葉表)

### 2 防除のコツ

防除のコツは早期発見、早期防除です。発見が遅れ多発してからの防除では効果がありません。常に観察し早期発見に努めて下さい。

#### (1) まず農薬をタップリとていねいに散布する

葉量と時間と気持ちに余裕を持つことが、ていねいな散布につながります。

#### (2) 狙いどころを定める

ハダニ類は葉裏、アザミウマ類は葉

裏やガク部、花の中にいます。特に葉裏は意識的に薬剤をかけようとしないとほとんどかかりません。

#### (3) 散布時間に気をつける

暑い時期のキク類は、早朝は葉の先までピンと張りがあって斜め上を向いていますが、昼間の暑さを過ぎると、夕方には葉が垂れていることが多くなります。葉の裏側に薬剤を届かせるには、早朝の散布が適しています。

#### ※農薬散布の間隔が空きすぎないように注意する

お盆用の出荷が忙しくなると、どうしても農薬散布の間隔が空いてしまいます。しかし、9月用はまだ防除が必要です。8月はハダニ類などの害虫による被害が、最も出やすい時期です。病害虫の種類や生態を把握して、適期に効果的な防除を行きましょう。

(中部農業事務所 普及指導課

園芸指導係 山口恭子)